

平成26年度 第1回連携テーマ部会 議事録

■日時：9月2日（火） 13時30分～16時30分

■場所：高知会館3階「平安」

■出席者：名簿のとおり

◎質疑・意見交換内容（要旨）

○産学官連携による力強い産業の礎を築く

【森岡部会員】

- ・オランダに学んだ次世代型施設園芸団地をすすめていくにあたって高知として一番の「売り」はどこになるのか。
- （農業振興部）例えば、トマトであれば全国シェアとしては数パーセントしかない。どういう風に売っていくかはこれからの作戦になるが、おが粉エネルギーや木質バイオマスなどの環境保全型農業や、害虫駆除など虫を虫で制するような方法など、安心して食べられるものをつくっていくという方向で売っていきたいと考えている。

【西部会員】

- ・産学官連携センターができるということで、産と学がもっと気軽に相談ができるようになるといいと思う。次世代施設園芸団地についてはPDCAをしっかりとって最後まで結果が出るようにやり遂げてほしい。
- （農業振興部）トマトについて、具体的な話にはなっていないが、他県に比べて多い成分や、栽培方法によって増やせる成分などの研究にもつなげるのではないかと考えている。

○中山間の暮らしを支える産業づくり

【森岡部会員】

- ・集落活動センターとシェアオフィスの連携はあるのか？
- （産業振興推進部）集落活動センターの拠点は住民が集いやすいところという視点だが、シェアオフィスは必ずしもそうではない場合がある。ただ、せまい地域でのことなので、状況が合えば連携、交流していきたい。

【市川部会員】

- ・集落活動センターの設置目標が10年間で130とある、数に捉われ過ぎなくてもいいと思うが、今後集落活動センターの位置づけを変えていくことはあるのか？
- （産業振興推進部）集落活動センターの設置は、集落づくり・活性化が本来の意味である。今年度からは集落支援担当総括を地域に置いている。基本的な考えは変えるつもりはないが、今がチャンスなので、今いる人を中心にスタートを切れるようにしていきたい。また、生活支援がベースにあり、ここをしっかりとった上で経済支援をや

っていくという考えである。まずは、住民にやる気になってもらうことが一番重要である。

○産業人材の育成と確保

【戸田部会員】

・ 林業労働力は定着するまでに時間がかかるが、最近さらに、土木業界の発注が相次いだことや、台風による災害が要因となり、賃金面で安定度の高い建設業へ人材が流れている。行政側が公共事業の発注時期をずらすなど、工夫をお願いしたい。労働力の年間平準化に力を入れてほしい。

→ (林業振興・環境部) バイオマス発電や、木材生産がこれからさらに重要になるので、労働人口が減るのは課題である。なんとか定着させて、平準化できるように考えていきたい。

【西部会員】

・ 企業側は人材を確保する際に「こうあるべき」と一方的に言うが、それが正しいかは分からない。受け入れる側の立場でものを言うだけでなく、生徒側の考えをもっと知ることが大事だ。

→ (教育委員会) 教育委員会、学校サイドも、企業がどんな人材求めているかを理解することも大事。キャリア教育の中で自分の考えを相手に伝える、コミュニケーション能力を持った人材を育てることがテーマでありしっかりやっていきたい。

【森岡部会員】

・ 土佐 MBA について、順調なようだが、受講生の内訳は？同じ人が複数受けているのか、新しい人が受けているのか。

→ (計画推進課) 正確には把握していないが、把握している実数としては400人弱、実践・応用編等含めて800人ほど。今年度は、新しい受講者の広がりを感じているが、まだまだ工夫の余地はあると考えている。

【西部会員】

・ 高知県内の新卒者が高知に残るように、1次産業～3次産業含めて県主導でお願いしたい。

【戸田部会員】

・ バイオマス発電について年間7万立方の熱をつくるなかで1% (700～800トン) の灰が出る。この灰の活用について産学官で検討してほしい。農業など、山側に還元する形で対応できるといいと思っている。

→ (部会長) 所管である林業振興・環境部で検討いただきたい。